

タウンミーティング（吉井地区） 開催報告

- 日 時 令和元年7月31日（水） 午後7時30分から
○場 所 吉井公民館 2階集会室

- 参加者 玉之江自治会長、石田自治会副会長、吉井小学校長、吉井小学校 PTA 会長、
社会福祉協議会吉井支部長、愛護班連絡協議会長、吉井商工会会長、
防犯協会支部長兼地区防災士会長、学識経験者2名

市長、経営戦略部長、危機管理監、東予総合支所長、危機管理課長、
地域防災アドバイザー、シティプロモーション推進課長、広聴係長、
東予総合支所総務課長、総務調整係員

- 傍聴者 8人

- 次第
- 1 開会
 - 2 挨拶（玉之江自治会長）
 - 3 挨拶（市長）
 - 4 市の主要事業について《市提案》
 - (1) 主要事業の説明（市長）
 - 5 参加者自己紹介
 - 6 地域課題①「地域防災対策」について《市提案》
 - (1) 課題等の経緯等内容説明（地域防災アドバイザー）
 - (2) 質疑応答
 - 7 地域課題②「各家庭に防災意識を広めるには」について《地域提案》
 - (1) 地域からの提案説明（司会）
 - (2) 意見交換
 - 8 その他
 - 9 まとめ・閉会
 - (1) まとめ（市長）
 - (2) 挨拶（玉之江自治会長）

○会議録

1 挨拶

【玉之江自治会長】

皆さん、こんばんは。夜分大変お疲れのところ、またご多忙の中、たくさんのお方にお集まりいただき感謝申し上げます。このタウンミーティングは、西条市連合自治会と市が主催となり地域が主導して開催するものである。市長に地元へおいでいただき、市の現状や今度の市政方針の説明に加え、地域住民と市と一緒に地域の課題について話し合うことで、私たちの声を生かし愛着の持てる地域づくりを行うことを目的としている。地域課題について、市長を交えて地域の皆さんで話し合う機会は初めてだと思うが、今晚は第一歩として、地域の課題を共有し今後の話し合いにつなげることを目標に、皆さんの協力を頂きながら会議を円滑に進めていきたい。

【市長】

皆さん、こんばんは。今日は出にくい時間帯だと思うが、吉井校区の各会の代表の皆様にお集まりいただき、こういった形でタウンミーティングできることを本当にありがたく思っている。もう少し早い段階からタウンミーティングを行っていきかけたが、どういうやり方が良いのか、仕込んだ質問を私が返すのもどうかと思い、6月22日から11月28日の5か月ロングランになるが、月に約4回のペースで28地区回っていくことになった。皆様の思いを予算化する必要があれば、来年度の予算に間に合わせたい。

平成16年の合併以降、政策をいっほうに安いほうにと振っていたが、それではたちゆかない状況になっている。公共施設も老朽化が激しくなり、今後の方針を決める時期に差し掛かってきた。

役につく者の高齢化、固定化があり、2つ3つの役を重複して苦勞をしている方が西条市内に多くいる。

地域の課題をみんなで解決していくために、橘校区や大町、国安、小松、田滝では、地域自治組織を作りながら地域の課題をみんなで話しあって解決に向けていこうという動きも出ている。そういった形で地域づくりをすでに始めている校区もあり、吉井校区でもお声がけをしていただきたい。みんなで話し合いながら解決していこうという協働のまちづくりなので、市から押し付けるというものではない。吉井校区に住んでよかった、住み続けたいと思うまちづくりを進めたい。今日をきっかけに、これが終わりではなく、これからという形でよろしくお願いをしたい。

2 市の主要事業について

(1) 主要事業の説明

【市長】(参照別紙資料(1))

3 地域課題①「地域防災」について

(1) 課題等の経緯等内容説明

【地域防災アドバイザー】(参照別紙資料(2))

(2) 質疑応答

【参加者】

南海トラフの津波について、瀬戸内海には、紀伊水道と豊後水道から両方から波が入ってくるが東予港は実際のどのくらいの津波が想定されるのか。

【危機管理課長】

愛媛県の被害想定では、最高津波水位は3.4mの津波が入ってくることが想定されている。中央防災会議も概ね3m程度ということで国は切り上げて4mと言っているが、東予港では3.4m津波高と言われている。

【参加者】

全国的に防波堤を突き出して高くしていく工事が進んでいるが、東予港はどれくらいの高さなのか。

【地域防災アドバイザー】

耐震化工事は済んでおり、地震が起こった時に護岸が崩れる事は起こりにくくなっている。船は発着できる体制にあると考えており、物資等の拠点になる。

【市長】

被害想定が愛媛県で一番死者数が多いので、ものすごくショックだった。堤が壊れなければ、あのような数字にはならないが、悪いほうの想定をするのでこのような想定になっている。日新製鋼があるところのほうが、広江や今在家より海拔が高い。西条側も埋め立てのほうが高い。

【参加者】

大雨が降った時、今在家や吉井、広江のポンプの能力が全然足りないと聞いたがどうなのか。

【市長】

大曲川の部分が非常に弱い。東予は時間雨量あたり50mmを想定していた。今は想定を超えるところもあり、耐えうるポンプのパワーが必要になってくる。ポンプも費用がかなりかかるが、生命に関わる話なので対応していきたい。

【参加者】

今在家と広江は50mmに対応している能力はあるのか。

【市長】

旧東予側は対応しているが、旧西条側が弱い。

行政の方から情報を出す逃げない人が多い。情報の提供は様々な形で行っている。防災行政無線も、反響して聞きとりにくかったり、逆に雨戸を閉めていて聞こえなかったりがあると思うが、情報の発信については行政がしっかり流していく。情報を取りに行くということをお願いをしたい。

情報が取れない方もいるので、そういったところをどういう風にしていくかということも、課題になる。

防災過保護というような話があり、自分の命まで行政に委ねていないかということも言われている。是非とも自らの命は自ら守るということをお願いしたい。

【司会】

逃げろという話だが、我々地域住民の意識として、この地域は、災害があまり起こらないであろうという認識がある。過去に広江の集会所あたりが腰くらいまで浸水したこともあるが、来たとしても国道で止まるというイメージがある。我々もそういった意識を変えていかなければいけない。ただ、逃げろと言っても、まだ大丈夫だろうという意識があるので、その辺は今後いろいろ勉強しながら意識を変えていく必要がある。

【参加者】

南海トラフの話に戻るが、ハザードマップを作っていると思うが、強い地震が来た場合、液状化現象がある。この地域当たりでの液状化現象が起こる場所の情報はつかんでいるのか。

【地域防災アドバイザー】

防災マップの裏面に液状化マップも載っている。震度マップと液状化マップというのが載っているので、見ていただければ色分けでどの場所がどれくらいの液状化の率になっているかがわかる。

【市長】

液状化はほぼ間違いなく起こるが、防ぐことができない。だから、命を最優先ということになる。

【司会】

以前の地震で液状化を起こしているところは旧4号地の干拓地である。この地域で液状化したところは今のところ旧4号地の干拓地以外はない。しかし、以前より大きな地震が来た場合はどうなるかわからない。そういった意味で、マップをよく見て頭に入れておく必要がある。

4 地域課題②「各家庭に防災意識を広めるには」について

(1) 地域からの提案説明

【司会】

いつかはわからない災害が吉井地区でも起こりえる。災害に対しまず一人ひとりが常日頃から身を守る意識を持ち、地域全体の備えに繋げる必要がある。地域でも防災訓練や様々な活動をしているが、防災倉庫の活用など、いざという時の備えは万全ではない。

この公民館にも防災倉庫を置いているが、今まで中身を見たことがなかったので、この機会に中身を見てみた。実際、使えるものもたくさんあったが、使えないと思うものもあり、もう一度自分の地域がどういう状況に置かれているのか知って、改善していく必要がある。

お集まりの各自治会や団体に、防災に備えてどのような活動をしているか、またその中でどのような問題があるのかを話し合い、地域全体で何ができるか、それぞれの立場でできることは何かを考えていきたい。

(2) 意見交換

【参加者】

自治会の自主防災会は、前会長の頃から引き継いでやっているが、役員さんの年齢が上がっている。実際、足腰が悪くて、動けないような人も入っている。若い人に少しずつ移行していかないといけないのではないか。同じ地区に防災士の会長もいるので、話を少しづつやらないといけない。

吉井地区は天変地異がない地区で、皆さんの危機感がない。もし災害があった場合、おそらくアウトかと思う。玉之江地区はフレンズからメイン道路に古い家屋も多く、地震が来たらブロック塀が倒壊すると思う。通学路にもなっているので、災害が起きる前からできる手立ては、相談していきたい。

【参加者】

小学校は地域の中心的な役割を担っている。防災に対するしっかり考えを持った子どもたちも沢山いるので、子どもたちの働き掛けも、防災については非常に役立つのではないかと。

地震や火災の避難訓練は校内では行っているが、実際に地震が起きて、第1避難場所が大変危険だった場合、次どうするか行動パターンやマニュアルを今年度見直し、第2避難場所への避難訓練を2学期に実施する予定にしている。以前は、吉田の高速まで第2避難をしていたが、あまりに非現実的なので、東予東中学校にお願いし第2避難場所を東予東中学校にさせていただいた。

夏休みに入る前に青少年健全育成の会があり、吉井地区には非行ゼロ、問題行動ゼロといった

大変安全な地域であることを知らせていただいた。人的な災害についても地域交えて、小学校中心に取り組んでいけないといけない。救命救急講習は夏休み前に、不審者避難対応は1学期にさせていただいた。やるだけではなくやった後の反省、課題、これをどう解決していくかが今後の取り組みになるのではないかと。特に不審者については、職員の行動パターンや、対応などを今見直している。やればやるほど課題が出てくるので、どこが終わりか難しい。

【参加者】

去年か一昨年に吉井地区全体で防災訓練をやった。参加者も多く、防災に対する意識付けができた。吉井地区全体で大掛かりな防災訓練を何年かに1回やるのは非常に効果があると思う。

【参加者】

この頃、想定外の雨量の雨が多かったので活動も増えてきて救命フローティングベスト等も購入した。今後広江は、3年間で消防団員の昼間にいる人間が18人中0人になる。夜勤や出張の人が多くなり、昔みたいに自営業の人間らが地域を守るという意識がどこの地区も薄れてきておる。他の地域では、その地域にいる自営業の人が固めた組織があると聞いた。西条市になって「人員を減らせ」、「西側が多すぎる」ということを言われ、去年は「増やせ」と勝手なことを今頃言われた。今から地域で入る人がいないようなところで今頃増やせと言われても増やせられるわけがない。今後は地域にいる人たちを、何か特別な枠のようなものを作ればいいのではないかと。

【市長】

若手の活用というのは地域自治組織の中で解決してもらいたい。地域が抱えている課題については、年寄りだけではできないので若手のPTAの皆さんと協力してやってもらいたい。吉井を守っていくために、みんなに立ち上がってもらいたい。市も一緒にサポートしていくが、自らかつて出てもらいたい。みんながこの地域を守っていこうということで先輩たちばかりに委ねるのではなく、若い人も参加して欲しい。橋では高齢者が買い物に行けないので、若手が買い物に連れていくことをやっている。吉井地区が抱えている課題については、みんなで解決するような方向にもって行ってもらいたい。

大阪北部地震でブロック塀が崩れ、小学校の女の子が亡くなった。西条市もブロック塀の補強をし、悪い所については壊した。民間の施設も、補助が出る仕組みがあり、本当に危ない1.2m以上の所については、ビラを配って対応をしている。補助を出して新たに作り変えてもらうといった仕組みにしている。

学校は安心できる場所でないといけないと思っている。通学路も同じであり、不審者の対応についてはいろいろなことを想定しなければならぬ。以前の時代とはずいぶん違う環境になっており、すべてに対応するのは難しい。不審者の対応については、登校中には各信号に地域住人が立っていただいて送り出すことはできるが、下校の時にはいないという話になる。これについては、わくわく健康ポイントの取り組みで高齢者に来てもらい、学校から歩いてみんなを連れて帰るといったことがあってもいいと思う。これは発想の転換等があると思うが、地域の皆さんで解決して欲しい。

吉井や玉之江は、河床の問題や、川の堤が壊れたらどうするかというシミュレーションをしなければならない。地域でも違うので、単位自治会で防災上の危ない所や、どこに逃げるといった話も必要である。

大洲の三善地区は、四国電力と連携を図りながら防災用の非常食を置かしていただくといった協力してもらい避難場所でのしるようになる。三善地区の自治会長は、どういったことでの対応をしていけないかをこまめにカードに書いている。そういったことで、きめ細やかな対応ができており、結局リーダーにかかってくる。強烈なリーダーシップによって救える命が広がっていくと思っており、そういった方を呼んで、それぞれの地域で考えていくこともできる。市も手伝いはするので、是非とも呼んでいただきたい。

それと消防団の問題だが、サラリーマン世帯が多いので、職員で対応していこうという話も出ている。現在は、水害より人探しが多く、非常に悩ましい。ここは、人の手を借りず職員もしっかり見守るということを入れてもらいたい。ICTを使って緩やかに高齢者を見守ることができる。高齢者がボタンサイズのものを持って行って出れば、スマホで位置がわかるようになっており、例えば、東予東中学校方面に高齢者が行っているということを知るようになってくる。そうすると少ない人数で探すことができ、ポイントを絞って人探しができる。これは、職員、消防職員、学校、先生がみんなのアンテナになる。そういったことで、スマホでみんなを緩やかに見守っていこうという動きもある。

団員の確保については、機能的にできるような適正数を今求めている。

淡路島にある北の街の北淡町では、消防団 OB という組織があり、あの家のおばあちゃんはいつもここで寝ていたから、倒れたらこういう所にいるだろうという事で、生き埋めの行方不明者をゼロにした。

地域づくりを総動員でやっていかなければならない。リーダーになる方には強烈なリーダーシップを発揮してもらい、この地域を守るという事を、1人ではしんどいので、2人3人というように形で枠を広げて行って欲しい。そういったときに、市も一緒にやるという気持ちでいる。

5 その他（地区における課題及び要望に対する回答）

【シティプロモーション推進課長】（参照別紙資料(3)）

6 まとめ・閉会

【市長】

本日は出にくい時間帯から遅くまでお付き合いをいただき感謝申し上げます。まだ言い足りないところや、こういうふうにしてもらいたいというご要望もあると思うが、この回だけでなく、市はいつでも門戸を開いているので、どんどん投げ込んでいただき、皆さんの提言や、要望に応えていきたい。工夫によってできることは積極的にやっていき、逆にできないことについてはできないでいいということで、市民の皆さんと共同の街づくりをしていこうという気持ちで取り組んでいる。これからも地域の課題を解決のために取り組んでいただきたい。

吉井地区に住んでよかったと言ってもらえるよう精一杯努力していきたい。本日は感謝申し上げます。

【玉之江自治会長】

本日はお忙しい中、皆様に出席いただき、吉井地区の防災について互いの見解を知ることができた。さらに吉井地区全体で災害に備えるため話し合いを継続していきたい。皆さんも各種団体に帰って充分話し合いをしていただき、今後も市と協力をしながら住民同士が支えあい、災害に強い地域づくりを目指して、地域自体を盛り上げていけたらと思う。皆さん本日は長時間誠に感謝申し上げます。

（閉会）

<タウンミーティングの様子>

